

# 2月20日は『アレルギーの日』

アレルギー性疾患の診断に大きく貢献したとされるアレルギー抗体『IgE抗体』を発見した石坂公成博士・照子夫妻が、米国のアレルギー学会で初めてIgE抗体についての発表を行った日が、1966年（昭和41年）の2月20日でした。これを記念して、財団法人日本アレルギー協会が、1994年に制定しました。同協会本部や全国の支部では、アレルギーの日を挟んだ一週間を『アレルギー週間』として、各種啓発活動などの行事を開催しています。

国内のアレルギー患者は国民の30パーセントを超えると推定され、その割合は年々増加傾向にあるといわれています。生活環境の変化に伴い、アレルギーが私たちの暮らしに及ぼす影響も大きくなってきました。

人間の体には、体にとって異物なもの（抗原）が体内に入ったとき、それに対抗する物質（抗体）をつくって抗原を排除するシステムが備わっています。これを免疫反応と呼んでいます。時に異常な反応が起きて生体にとって不利益になることがあります。これがアレルギー反応です。アレルギー反応には鼻水や涙目、喘息、発疹、かゆみ、ジンマシンなどを伴う場合が多く、代表的な病気、症状としては、気管支喘息やアレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、花粉症などがあります。また、アレルギーの原因となる物質を『アレルゲン』といい、花粉、カビなどのほか、ダニの死骸、ほこり、金属などもアレルギーを起こす要因と考えられています。

花粉症の症状がある人にとっては、間もなくつらい季節がやってきます。花粉症を克服するには、『医師に診てもらおう』ほか、マスクやメガネをかけるなど『生活の中で花粉症を重くしない工夫をする』ことなどが挙げられます。



平成十六年は申年。

日本に生息しているのは『ニホンザル』。顔とおしりの赤い、おなじみのサルです。人間と同じ霊長類に属し、北は青森県下北半島から、南は鹿児島県屋久島まで生息しています。群れをつくり、木の上を得意とし、主に、果実や種子、花、葉などの植物や昆虫を好んで食べるようです。

サルは様々な昔話にも登場しますし、サルにまつわることわざや慣用語もたくさんあります。『さるかに合戦』ではサルは悪役でしたが、『桃太郎』や『西遊記』では、主人を支える名脇役として活躍しました。

ことわざで、だれもが知っているのは『猿も木から落ちる』。これは、その道にすぐれている人でも、時には失敗をすることがあるということのたとえ。『木から落ちた猿』

は、頼みにするものを失ってどうしてよいか分からない状態のことをいいます。木の上を得意とするサルならではの

ことわざです。

同じくサルの特徴をよくとらえたことわざといえば、『猿の尻笑』。自分の尻の赤いことに気づかないで、ほかの猿の尻が赤いことを笑う意味で、自分の欠点に気づかず、他人の欠点を笑うことのたとえです。そのほか、『サルまね』『サル知恵』『サル芝居』などの言葉がありますが、どれもあまりいい意味では使われていません。

そもそも『サル』は『去る』というイメージがよくないのでしょうか。『去る』は『去る』でも、悪運だけは去っていつてほしいものです。

## 今年はいさるどし申年

